

## 「大阪のまちづくりグランドデザイン(案)」に対するパブコメ

大阪に転居してから行政、具体的には大阪府や大阪市に異議を申し立てることが多くなった。パブリック・コメント(パブコメ)も、その一つである。名古屋時代には、一度もやったことがなかった。

確か夢洲の港湾計画か、都市計画の変更に対するパブコメが最初だったと思う。パブコメなんか、どうせ聞きおくだけで意味がないと思いながら、5年近く継続してやっている。昨年11月9日から12月9日まで「大阪のまちづくりグランドデザイン(案)」に対するパブコメが実施された。たまたま大阪市役所の市民情報プラザで、このパブコメを知り、資料に目をとおして大阪府に意見を送った。

大阪のまちづくりグランドデザイン案は、「ポストコロナを見据え、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、さらに成長・発展していくため、大阪圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪のめざすべき都市像やまちづくりの方向性、その推進の取組等を示す」とされている。

人口減少時代に入り、日本経済や国土構造が「限界」に近づいているなか、どのようなグランドデザインを描いているか、大阪のまちづくりの新たな方向性に注目したが、まったく期待はずれであった。相変わらずの成長と「副首都」志向で、環状軸と拠点エリア中心の開発計画であった。

昨年末、パブコメの結果が公表され、写真のように私の意見と大阪府などの考え方がまとめられていた。ここからもパブコメに辛口の意見を出していきたい。

No	ご意見等の趣旨・内容	大阪府・大阪市・堺市の考え方
39	<p>グランドデザイン案について、下記のようにまちづくり案の視点・方法を中心に、質問・意見を述べますので、ご検討ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年と2016年のグランドデザインとの違い、2050年を目標とすることを明確に示すべきである。</li> <li>・全体として、大阪都市圏レベルの広域的な視点が強調され、大阪府や大阪市、周辺町村、地域の実態が十分に分析されていない。上から目線のまちづくりグランドデザイン案となっている。</li> <li>・相変わらず「副首都」や「成長志向」が目立ち、気候変動や感染症、人口減少時代の地域社会を取り巻く厳しい現実、災害などのリスクについての視点が弱い。</li> <li>・「軸」や「拠点エリア」をベースにしたグランドデザインであり、大阪の自治体やコミュニティなどからの視点、分析に欠ける。とりわけ政令指定都市である、大阪市の位置づけが弱い。中心市と周辺衛星都市などの関係、政令指定都市の役割をより明確にすべきである。</li> <li>・まちづくりの取組については、足もとの地域・コミュニティの役割をもっと重視すべきである。また、まちづくりの調査研究、情報取組・共有のセンターを設立してもらいたい。</li> </ul>	<p>グランドデザインは、ポストコロナを見据え、万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、大阪がさらに成長・発展していくため、「グランドデザイン・大阪」(2012年策定)と「グランドデザイン・大阪都市圏」(2016年策定)の策定後に生じた社会情勢の変化や新たな潮流等を踏まえるとともに、2つの計画の考え方を整理・統合し、2050年に向けた大阪全体のまちづくりの方向性を示すものです。</p> <p>策定にあたっては、グランドデザイン推進本部会議や有識者懇話会等での議論だけでなく、市町村との意見交換などを行いながら、進めております。</p> <p>また、人口減少社会に対応し、コロナ禍を契機に多様化したライフスタイルなどを踏まえ、駅周辺での拠点形成や地域資源を活かしたまちづくりなどの取組を進めるとともに、防災インフラの充実など、ハード・ソフト両面で高い災害対応力を備えるための取組や気候変動そのものの緩和策としてのカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた取組などを示しています。</p> <p>政令指定都市である大阪市・堺市においては、戦略1で示すとおり、世界で存在感を発揮する拠点エリアの形成を図るとともに、その拠点開発効果を府域へ波及させていくことが求められていると考えます。</p> <p>グランドデザインの推進にあたっては、まちづくり団体や民間団体、企業・事業者などと連携しながら、取組んでいくこととしています。</p>

(2023年1月6日)